

総合リハビリテーション学会は変わろうとしています

総合リハビリテーション学会

学会長 中 川 昭 夫

神戸学院大学総合リハビリテーション学部が2005年4月に設立され、1年後に総合リハビリテーション学会が開始されました。毎年、学術集会を開催してきて本年は第12回をかぞえています。学会が設立された当初は、会員として、教員と学部学生だけで構成されていました。当時の学術集会は、教員が発表するにしても、学部学生に、リハビリテーションの様々な側面を知ってもらいたいという、教育的な要素が強く、学術集会の構成もそのような目的に沿った内容で作り上げられてきたという記憶があります。その後、そのような環境で育った学部学生も卒業するようになり、当然のことながら卒業生の方が在校生を越えるようになりました。学会設立当初には、卒業生は、終身会費を納めることにより、終身会員として学術集会へ参加することができるようになるほか、毎年出版される学会誌「総合リハビリテーション研究」を受け取るなどのサービスを受けることができるとされていました。しかし、大学を卒業して、それぞれが専門の分野で仕事を始めるとなると、なかなか、在学時のように、この学術集会に参加することも難しく、また、仕事に必要な専門性に富んだ分野とすることも難しいこともあり、終身会員の人数は伸び悩んできました。一方で、学会開始当初に比べて、情報を伝達するメディアについても、紙ベースでの学会誌と郵送という手段を中心としてきたものから、インターネットでの伝達ということが当たり前になり、さらに、当時では存在すら考えられなかったスマートフォンも普及し、古い人間の表現としては、コンピュータをポケットに入れて生活することができるという時代になり、必要とする情報には、いつでも、その場でアクセスできるという世の中になりました。

そこで、学会としては、このような世の中の変化に対応し、卒業生すべてが終身会員であるという認識のもと、卒業生と学部学生全体で学会の活動を活性化することができるようにという趣旨から、終身会費の制度を廃止し、すべての卒業生にも学会の活動を伝えることができるように、学会誌である「総合リハビリテーション研究」を学会ホームページにも掲載し、学術集会を始めとする活動案内についても、ホームページを用いて広報することで、誰でもアクセスできるようにすることとしました。これにともなって、終身会費を支払っていただいていた方にも、これまでの毎年の学会誌の印刷費や送料を経費として差し引かせていただいた金額を返還しています。

今後は、これまでの学術集会の枠にとどまらず、卒業生と学部学生をつなぐ活動もできるようになるよう、変化しようとしているところです。学術集会の形態も、時代の要求に沿うように模索を続けていますし、学会が行っている研究・活動助成についても、学生のみならず、卒業生にも参加可能になるようにするなど、変化しようとしています。今後の変化に期待していただきたいとともに、どのような学会となることが望ましいかについても、皆様のご意見をいただければと思います。

2017年12月吉日